

栄村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、1戸当たりの経営面積が零細であり、耕作条件の悪い湿田・小区画の水田が多い。また、農業従事者の減少・高齢化が進み、水田の荒廃が進行している。

しかし、本村の水田農業は地域の景観、集落機能の維持においても重要な役割を担っており、近年は良質米としても需要が高まっている状況である。

については、現状の課題に対応し農業振興を図るため、新たな地域振興作物の作付を推進していくことに加え、担い手への農地利用集積を図っていくことが必要である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

水稻生産に適した土地柄であることから、さらなる良質米の生産に取り組むことに加え、引き続き生産調整（生産数量目安値）を実施する。

(2) 非主食用米

農業協同組合等と連携し、今後の経過をみながら検討を進める。

(3) 大豆

自家用及び販売用・味噌用の加工用大豆として、生産量の増加を図る。

(4) そば

震災以降新たな地域特産品（振興作物）として生産・加工などの取組・販売を開始し、生産面積を拡大している。本村にとって、ニーズの高い作物として位置付けられることから、新たな特産品としてブランド化を図るためにも、今後もこの取組をさらに推進し、特定品種の生産面積を高め、水田の活用を進める。

(5) 高収益作物（野菜等）

地域の特色を図るため、水田における転作作物として地域毎に定める産地推進品目（アスパラ、きゅうり、ズッキーニ、ピーマン、コギク、シャクヤク、たまねぎ）を推進し、ブランド化を図る。

また、これらの作物は、畑地での栽培が主であるが、産地交付金により水田での栽培に対する支援を行い、転作への円滑化及び水田の有効活用を図っていく。

(6) 畑地化の推進

畑地化を推進し、水田経営の複合化を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	200.9	200	200
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	0	0	0
大豆	0	2	3
飼料作物	0	0	0
そば	24.8	20	28
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	0	6.8	8
・野菜	0	5.8	7
・花卉・花木	0	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	大豆	大豆の生産性向上に 対する支援	大豆の作付面積	(29年度) 0ha	(30年度) 2ha (32年度) 3ha
2	そば	そばの生産性向上の 取組による単収等向 上への支援	そばの 10a 当たり 収穫量	(29年度) 37.9 kg/10a	(30年度) 45 kg/10a (32年度) 55 kg/10a
3	アスパラ、きゅう り、ズッキーニ、 ピーマン、コギ ク、シャクヤク、 たまねぎ	産地推進品目（高収 益作物）の作付拡大 への支援	対象作物全体の作 付面積	(29年度) 0ha	(30年度) 6.8ha (32年度) 8ha
4	そば	そばへの支援（地域 の取組に応じた配分 の対象分）	そばの作付面積	(29年度) 24.8ha	(30年度) 20ha (32年度) 28ha
5	そば、大豆、アスパ ラ、きゅうり、ズッ キーニ、ピーマン、 コギク、シャクヤ ク、たまねぎ（基 幹）	畑地化の取組（地域 の取組に応じた配分 の対象分）	畑地化の支払い対 象面積	(29年度) 0a	(30年度) 20a (32年度) 20a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。